

3 区の先生たちが作った明日から学校で実践できることベスト 10

- 01：男女わけを見直そう！その色わけ、本当に必要？
- 02：「くん」、「ちゃん」って呼ばれたくない子がいるかも…「さん」に統一しよう
- 03：図書館や保健室に本を置こう！学級日より、図書日よりで LGBT の本を紹介してみよう
- 04：差別的な言葉(p.6)を見聞きしたとき、どう切り返す？とっさの一言を考えておこう
- 05：子どもが相談しやすい「安心」できる先生になろう
- 06：言葉づかいを見直そう！その言葉づかい、OK？ (p.5-6 参照)
- 07：LGBT のポスターを貼ってみよう
- 08：ハンドブックの「卒業生の声」を読もう
- 09：職員会議や学年会議で LGBT について話そう
- 10：日常生活で「当たり前」になってしまっているかもしれない自分の言動を見直してみよう

先生たちの声

このハンドブックを作成するにあたり、13 人の先生方にご協力いただきました。

○第 1 回ワークショップの先生の声

初めて「LGBT」という言葉を知った先生方からは、こんな感想が寄せられました。

- ・知らないから、正直不安。
- ・説明する自信がない…
- ・教えることがいじめにつながったり、悪影響になるのでは？

しかし、2 週間後の第 2 回ワークショップのとき、先生方からは以下のような声がありました。

○第 2 回ワークショップの先生の声

- ・勤めていた学校があった区に当事者がいるんだと再確認した
- ・昔の考えが当たり前になってしまっていた
- ・クラスに 1 人は LGBT の子どもがいるかもしれないと知り、身近な子ども達について考えていなかったことに気づいた
- ・学校の中に「性」で分けられているものの多さに気づいた
- ・今まではスルーしていた LGBT のニュースなどにも、問題意識を持てるようになった
- ・「変なやつ」で片付けられてしまう厳しい現実について知れた
- ・一番重要なのは教職員の意識！当事者のゲストスピーカーを呼んで学校の意識を変えたい
- ・「だれもいじめられることのない学校をつくりたい」ということを子ども達に伝えたい
- ・どんな人も差別しないように学びの場を作ろう

「教える」ことがいじめにつながるのではなく「教えない」ことが困っている子どもたちを見過ごすことになっています。LGBT について完璧に説明できるようになる必要もあり

ません。子ども達に先生たちも一緒に学んでいる姿勢を見せていきましょう。